



生みの親といっしょに
よりよい育ての親に

童心会だより12月



わたしを ぎゅっとして
わたしを 見つめて
わたしを 聞いて
わたしを 呼んで

〔十人十色(じゅうにんといいろ)・百人百様(ひゃくにんひやくよう)〕 ～すべての多様性に伴う人たちへの包括支援～

現代の世の中で、とても大切にしなければならない言葉は、

All diversity and inclusive support(すべての多様性に伴う包括的支援)です。

diversity(多様性)という言葉は、

1970年～80年代における国籍・文化・宗教・性別・障がいといった特徴・性質などの多様性の尊重から、

近年では価値観・生き方・感情表現・幸福感といった、

より内面的心理社会的な多様性の理解へと考え方を広げています。

だから私たち(社福)童心会は、

「すべての多様性に伴う人たちへの支援、十人十色(ひとりひとりがみんなちがうこと)」

という考え方をしています。改めて考えて見ますと、私たちが本当に長い間、求め続けてきた

「保育目標(人間教育の原点)」思いやり(慈悲)と生きる力(智慧)」とは、

"All diversity and inclusive support"の中にあるのかもしれません。

私たちは2000年以上の永きに亘り、

「自然崇拜・畏怖・敬畏・八百万の神(多様性)」の思想が底辺にあって、

自敬・自尊感(自分を大切にできるヒト)を育て、

自分が好き・生きている喜びを感じられる人たちを育ててきました。

この偉大なる宇宙を創り給うたSomething great(偉大なるお人)の存在は、

この広大なる自然を怖れ敬う心を育て”人としての生きる道・道理”を伝え続けてくれました。

その訓えの底辺には、「気候・風土・文化・歴史・宗教」に則った生き方が訓え伝えられていたのです。

それが狩猟採集民族の文化・歴史・宗教になったのであろう、と確信しています。

それが私たち(社福)童心会の「人の成り立ちの歩みの木」のモデルとなり、

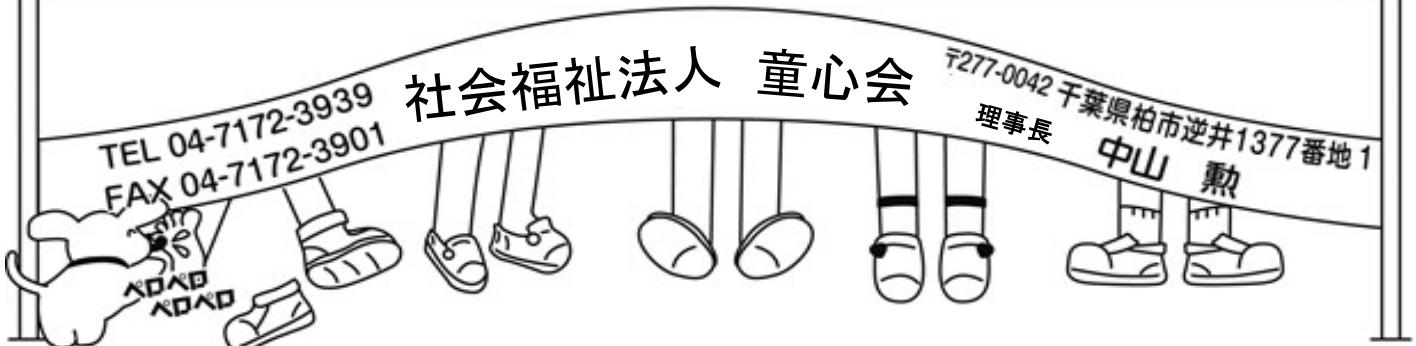
人間教育の最終的な目標になりました。



笑ったかず一番 だっこされたかず一番 やさしくされたかず一番
遊んだかず一番 でかけたかず一番 チャレンジしたかず一番



E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>



Human healthcare goal となり、
「自分を生きる・みんなと生きる・助けあって生きる・世のために生きる」
ことが目標となつたのです。

改めて私のこの人間教育の歩みをふり返ってみると、1970年代以降の核家族化によって、
地域社会・家庭・子ども社会(ガキ大将)・学校が担ってきた「社会教育力」が、
目の前で崩壊したことが私の大きな転機になりました。

私は、「では次はどこで人間教育を行うべきか」という問い合わせました。
それが、茨城県にいた頃の筑子保育園の6つの機能と役割がありました。

- | | |
|-----------|----------------------|
| ①パーソナル・ケア | ④保育ソーシャルワーク |
| ②ファミリー・ケア | ⑤保育所からはじめる地域コミュニティ創り |
| ③メンタル・ケア | ⑥未来の親づくり |

今ふり返って考えてみると、この歩みは(社福)童心会の
「五感と六識を刺激する0歳からの人間教育」に繋がっています。
即ち、五感を通して感覚的に外界の違いを感じとり、
六識によってその違いを知識と意識(心)に分けて意味づけを行う考え方とは、
人が他者と世界の多様性を理解する第一歩です、とChat GPTは解説をしています。

この視点はハーバード大学子どもの発達センター(CDC:Center on the Developing Child)が唱える
「Serve & Return(応答的やりとり)」理論と重なり、乳幼児期の情動的応答が、
のちのレジリエンス(回復力)を形成するという科学的知見に一致するというのです。
即ち人間性(Humanity)を高める人間教育とは
「乳幼児期からの自分を創り、人を創り、社会を創る営みである」ことなのです。

私たち(社福)童心会の実践はまさに
「人間学を人間科学の融合による”生きた哲学”である」という評価を受けています。
それは保育を超えて、「人を育てる文化の再生」を目指す社会的使命を帯びています。

私たち(社福)童心会の社会的機能と役割の一つは、
茨城県にある筑子保育園の時代から「保育所から始める地域コミュニティ創り」でした。
保育所が家であり、家族であり、社会であるという理念は
”失われた社会教育力”を再構築するための手立ての一つでした。
しかし、私の考えた”五感と六識を刺激する0歳からの人間教育”的主眼は、
あの時代から芽生え始めてきた「不適切な養育(Child mal-treatment)の予防的人間教育」だったのです。
これらをアメリカのハーバード大学子ども発達センター(CDC・2006年)は実証してくれたのです。

「乳幼児期の経験が生涯にわたる健康・学習・市民性の基盤をつくる」

今日もまた一日一生を念じながら
すべての仲間たちの Well-being !! 幸せになろうね！ 幸せになろうよ！”と
祈り願い続けていくつもりです。
どうぞいつまでもお幸せに！ 良い新年をお迎え下さい。

令和7年 12月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 熱